

東京バッハ合唱団 月報

[第 506 号] 2004 年 8 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky3Web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.506
August 2004

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

佐々木まり子さん(アルト)をお招きして、独唱カンタータの夕べ 野尻湖 2004

東京バッハ合唱団では毎年、長野県の野尻湖畔での夏期合宿を兼ねて、特別演奏会を開催しています。今夏はアルトの佐々木まり子さんをお招きして、バッハのアルト用ソロカンタータ2曲を中心にプログラムを組みました。

わが国ではめったに演奏されることのないソロカンタータを、しかも日本語で聞くことのできる貴重な機会となります。

夏休み、信州方面にお出かけの方は、今からスケジュールにお加えいただき、ぜひとも湖畔のチャペルコンサートにお立ち寄りください。

日時：2004年8月7日(土)19時開演

会場：長野県野尻湖畔・神山教会

(Nojiri Lake Association 内)

入場無料

合唱団の合宿期間は8月5日(木)午後から8日(日)午前まで。滞在/練習場所は野尻レイクサイドホテル(長野県上水内郡信濃町、電話0262-58-2021)です。

アルト独唱カンタータ

解説・橋本 眞行

バッハがアルトソロのために書いたカンタータは4曲が残されており、ヴァイマル時代の1曲(BWV54)を除く3曲(BWV35, BWV169, BWV170)は、1726年(バッハ41歳、ライプツィヒ・トーマス教会カントル就任4年目)に作曲されました。この時期に集中してアルトソロのためのカンタータが書かれているので、優秀なアルト歌手がその頃ライプツィヒにいたのであろうと想像されます。

また、これらの曲で、バッハはオルガンをオブリガートとして用いていますが、それは16歳になった長男W.フリーデマンに公での演奏に参加させ、実地教育を施そうとしたためと考えられています(今回はヴォーカルスコアによるピアノでの演奏)。

カンタータ第35番《心は 乱れ惑う》

„ Geist und Seele wird verwirret“ BWV35

大村恵美子訳詞

野尻湖特別演奏会 2004 プログラム

カンタータ第35番《心は 乱れ惑う》-アルト独唱

2)アリア、3)レチタティーヴォ、4)アリア

5)シンフォニア、6)レチタティーヴォ、7)アリア

カンタータ第78番《イエス わが心を》-混声4部合唱

1)合唱、2)二重唱、4)アリア、6)アリア、7)コラール

カンタータ第170番《うれしき心の平和》-アルト独唱

1)アリア、2)レチタティーヴォ、3)アリア、

4)レチタティーヴォ、5)アリア

アルト：佐々木まり子

合唱：東京バッハ合唱団

ピアノ：内山亜希

指揮：橋本眞行(BWV78)

第1部

1. シンフォニア(演奏割愛)

2. アリア

心は 乱れ 惑う

わが 主を 思う とき

主の みわざを 民 こそぞり

喜び 讃(たと)うれども

耳と 口は 閉ざさる

3. レチタティーヴォ

見るもの みわざの すべて 驚き のみ

貴き 神の み子よ わが 思いは 及ばず

み前には 奇蹟すら 比ぶべくも なし

なれこそは 奇しき 不思議の 泉

地にては 尊き 独りの 主

閉ざせる 耳 口 なれは 開きたもう

さらには 主の 一言 目を 開かせたもう

これぞ まことの 不思議なれ

天使 すらも よく 伝えざらん

4. アリア

主は よき わざ なせり
 愛と まことは
 日々 新たなり
 憂いに 沈む とき
 慰めたまえり
 見守りたもう われらを つねに
 主は よき わざ なせり

第2部

5. シンフォニア

6. レチタティーヴォ

強き 主 たえず 思わしめよ
 わが うちに 主を 抱(いだ)かしめよ
 わが 魂も「開け」の み声に 従わん
 ああ 恵みの 指を
 わが 耳に 入れて 救わる (マルコ7:33-35)
 愛の 手に 舌も ゆるめられ
 そを ほめ歌い出ず
 主の 世継ぎなる 証しを われは なせり

7. アリア

主の かたえに 生きん
 これぞ わが 望み
 ああ その日 来たれや
 うれしき ハレルヤを
 み使いと ともに 歌わん
 いとしき イェス 解きたまえ
 悩みの くびき より
 み手の うちに 受けよ
 わが つらき いのちを

【解説】

この曲は三位一体節後第12日曜日用として、1726年9月8日に初演されました。歌詞はダルムシュタットの宮廷詩人G. C. レームスの手になる自由詩(1711)で、この主日に朗読される福音書章句、マルコ7章31~37節の「聾啞者の癒し」をふまえて、神の奇蹟を讃美する内容となっています。

曲は2部構成で、各部の冒頭(第1曲、第5曲)にシンフォニアを置くという極めて珍しい構成になっています(今回は第1曲を割愛して演奏します)。また、これら2つのシンフォニアと第2曲のアリアは、ケーテン時代の作品とされるオーボエ協奏曲(BMW1059、消失、さらにクラヴィーア協奏曲にも編曲されたようである)を基にしているとのこと。

いずれも生氣にあふれ、気力が充実したシンフォニアは勿論のこと、とくに協奏曲の緩徐楽章にアルト声部を加えたとされる第2曲のアリアなどは、まさにこのカンタータのために作曲されたと感じさせるほど見事な出来栄です。数歩行っては躊躇して立ち止まるようなシチリアーノのリズム、千々に乱れる様を表わすようなオブリガートオルガンの32分音符の走駆、ところどころで用いられる、不安を感じさせるような、低音部の参加しない伴奏(バセットヒェン書法)などが、心は乱れ、惑う様を的確に表わしています。

第4曲のアリアでは奇蹟が神の愛の賜物であることを喜びのリズムのうちに歌い、第7曲のアリアでは神のみもとに生きることをメヌエット風の舞曲にのせて願います。

| |
|--|
| <p>カンタータ第170番《うれしき 心の平和》 „Vergnügte Ruh, beliebte Seelenlust“ BWV170 大村恵美子訳詞</p> |
|--|

1. アリア

うれしき 心の 平和
 罪の もとには あらず
 み国にぞ 見るを 得ん
 弱き 胸を 強むる ただ 一つの 望み
 ああ わが 心の うちに
 主の よき 賜物(たまもの) 住まえや

2. レチタティーヴォ

罪の 住処(すみか) この世の 歌うは
 憎み ねたみ
 サタンの 似姿のみ
 口は 毒に 満ち
 死に 至らしめり
 嘲り ののしる ばかり
 いかに なれより 遠きに ありや
 人は その口 呪い 争い
 隣人(となりびと)を 踏みしだく
 ああ この罪 赦す 祈り なし

3. アリア

いかに 嘆かわしきかな
 かくまで 曲りて 主に そむく 者ら
 おののき はげしき 痛み われを 襲う
 人 憎み 責むるを 喜ぶ とき.
 正しき 神よ なが 思い いかならん
 かれら 主の 掟を
 サタンに 与(くみ)し 嘲り 笑う とき.
 ああ 主は 憐れみたまわん
 いかに 嘆かわしきかな 曲りて そむく 心

4. レチタティーヴォ

かかる 世には 生くるを 望むや
 愛すれど ただ 報いは 憎しみ
 主に 従い
 敵をも 愛すべきなれば
 われ 怒りを 捨てて
 主と ともに 生くるを 願わん
 主こそ 愛なれば
 ああ いつなりや
 安らぎの 国に 入る 日は

5. アリア (アルト)

生くるを 終えん

われを イェスよ とり去りたまえ
罪より 去りて
ついの 住処に
安らぎを たまえ

【解説】

このカンタータは、1726年の三位一体節後第6日曜日、7月28日に初演されています。この主日の福音書章句、マタイ5章20～26節「山上の垂訓」の一節では、兄弟に対する怒り、罵詈雑言、恨みなどへの戒めが説かれています。この曲の作詞者レームスは、人間にとって最も近い存在であり、最も愛し合うべき兄弟に対して、人々がそのような悪意に満ちた態度を取ることを嘆き、そのような現世を厭っています。バッハがカンタータの台本として用いたテキストの多くは、初めに悩み・苦しみを述べることにより現状の問題提起を行い、次にイエスによるあがないや神への信頼によって、最後には永遠の平安に到る、というような論理的な流れがありますが、このカンタータの歌詞では、先ず理想である永遠の平安が述べられ、次に敵意に満ちたこの世の現実と人々の心の闇を告発し、最後に神のみもとで生きるために天に召されることを希むという論理の流れになっており、音楽的印象も他のカンタータと少し異なります。

第1曲はアリアで、パストラル（田園曲）風の音楽に乗せて、天における魂のやすらぎが歌われます。第2曲レツィタティーフでは一転して、鋭い語気で現世のおぞましさを指摘します。第3曲アリアはこのカンタータの中心をなす曲で、ここでは人の心のねじ曲がりを嘆きます。曲を通してヴァイオリンとヴィオラのユニゾンによる前述のバセットヘン書法が用いられ、宙に漂う虚ろさを示し、オブリガートオルガンが人の心のねじ曲がりを印象付けます。第4曲で、神のみもとで生きることを決意し、第5曲（終曲）アリアで、穏やかな喜びに満ちている音楽にのせて、天に召されることを願います。

母語で歌う開放感と自在さ

野尻湖での独唱カンタータ演奏によせて

佐々木 まり子（声楽家）



盛岡においての楽しみのひとつは、月1回かならずチェンバロとのアンサンブルの時間を過ごすことであるが、それがもう5年以上続いている。

チェンバロを弾いてくださるのは劔持清之さん（盛岡大学短期大学部助教授）。ソリストとしてはもちろんのこと、アンサンブルにおいても数多くの経験をもち、信頼できる“息の合う”音楽仲間のお一人である。

取り上げる曲はヴィヴァルディ、ペルゴレージらイタリア初期バロックの作品。あるいはブクステフーデ、テレマン、ヘンデルらのドイツの初期からバッハと同世代の作曲家らのアルト独唱カンタータ。そしてそれらは私の最も愛するJ.S.

バッハのソロカンタータへの布石であった。

劔持氏の、熱いアプローチのチェンバロ伴奏のおかげで、バッハのアルト用ソロカンタータ全6曲（偽作の53番も含めて、BWV35、BWV54、BWV169、BWV170、BWV200。ただしBWV200はアリア部分1曲のみの残存）を、いつ依頼がきてもすぐ歌えるように、楽しみながら備えていた。

このうちBWV53《いざ待ち望みたる時を告げよ》とBWV54《いざ罪に抗うべし》は、盛岡いのちの電話開局10周年チャリティコンサートで、またBWV169《神にのみ我が心捧げん》は、主人（佐々木正利）の指揮にてオーケストラ伴奏で、仙台宗教音楽合唱団コンサートのプログラムのひとつとして歌わせていただき、“夢”の小さな部分がなかった。

以前から思っていたのだが、アリアはもちろんのことレチタティーヴォの中では、人の内的な想いが実に素直に、正直に告白されている。...それに対して原語では、やはり聞いて理解するには限界があり、聞いてくださる方々に少しでもこの内容が伝わればどんなにいいのに...との思いが強くなった。

そこで昨年5月の定期演奏会の際、思い切って、大村先生にとくに大曲である3曲、BWV35、169、170の邦語訳をお願いした。すると約1週間後、まだこちらは定演後の心地よい疲労に浸っていたときに、邦語歌詞がふられた、この3曲の楽譜がドンと送られてきたのだ。“うわあ、大村先生のパワーには脱帽!!”とノックアウトされたような感じながらも、さっそく原曲の流れと邦語訳とのマッチングに時間をかけて取り組んでみた。

大村先生が訳してくださる言葉は、私自身が分かっていたつもりだったことに、新しい角度での理解を呼び覚まさせてくれた。まさに「大事なのは新しい創造です」（ガラテヤ6：15）

BWV35《心は乱れまどう》（大村訳）BWV170《うれしき心の平和》（同）の両カンタータは、いずれも実に美しいメロディーラインと言葉の内容が相一致した曲で、とくにBWV35の第2曲アリア 心は乱れまどう、BWV170の第3曲アリア いかにか嘆かわしきかな は、言葉がそのまま音型に具現化されている。

ふだん日常生活を送っているときの“体”を“楽器”として使用するとき、これらの言葉の音型は内臓のねじれのような感覚をともなった響きとなって体内に層を重ね、いやが応でも、曲の奥深くに引き込まれていくのである。そしてそれらが、つづく各レチタティーヴォでの心の吐露により、しだいにそのねじれが解き放たれ、BWV35では次の第4曲アリア 主はよきわざなせり で、BWV170では第5曲アリア 生くるを終えん で、主の約束の言葉の確かさと希望により、音楽は解放感と自在さにあふれ、演奏者側も運動的躍動感に押し出されるかのごとく（それに乗れるとよいのだが...）歌い引かれてゆくのである。私は演奏者として - そして小さな信仰者として - 母語でのバッハの音楽の再現に、できるだけのことをやり遂げたい思いでいっぱいである。

今回は思いがけなく、バッハ合唱団の夏の野尻湖での特別演奏会に歌わせていただけることとなり、こんなにも早く私の“夢”が実現する場を与えていただき、緊張しつつも心より感謝している。

2004 年度団員総会の記録

坂本 信之 (団員:テノール)

日時: 6月26日 15時30分より

会場: 世田谷練習場 (桜新町・世田谷中央教会)

議長: 片岡武彦、記録: 坂本信之

. 2003 年度活動報告

演奏活動

- ・ 2003年8月2日、世田谷中央教会特別演奏会
- ・ 2003年8月9日、野尻湖神山教会 //
- ・ 2003年12月7日、第94回定期演奏会
- ・ 2004年5月9日、第95回定期演奏会 (橋本眞行氏、当合唱団定期演奏会に指揮者として初出演)

その他の行事

- ・ 2003年7月5日、団員総会 / 創立41周年懇親会
- ・ 2003年8月7-10日、野尻湖合宿
- ・ 2003年12月8日、クリスマス会

. 2003 年度会計報告、2004 年度予算案の承認

経常会計・演奏会・後援会

いずれも、団員・会員の減少により厳しい状況にあります。この現実に対して熱心な討議がなされました。特に団員増加策について真剣に取り組むことになりました。

緊急策として、今年は、団員の欠席の多い、野尻湖合宿後の1ヵ月間、夏休みとして諸経費を節約することになりました (8月9日 9月4日の土曜・月曜計8回)。

演奏会会計については、プログラムと入場券の手造り、チラシ配布は業者委託分を減らして団員自らが行なう、びあ取り扱いの中止等で、支出を大幅に削減しました。ひきつづき今年度も、チラシの効果の検証、インターネットの活用、デザイン料の見直し等をつづけます。

後援会も、会員の高齢化で収入が減っています。何人かの団員は後援会員を兼ねていますが、余裕のある方は後援会入会を歓迎します。

以上、活発な意見が述べられ、いくつかのアイデアのもとに、各予算は一部修正することで承認されました。

. 各係りの報告と新年度担当者の選任

新パートリーダー

- ・ ソプラノ: 菅原 (昌)、片岡 (京)
- ・ アルト: 箕浦、小野
- ・ テノール: 大村 (健)
- ・ パス: 戸川、片岡 (武)

その他の各係り氏名省略

. 2004 年度活動予定

別表の資料により検討、原案どおり承認されました (年内のスケジュールについては、月報504号参照)。

. その他の相談事項

1. 2007年《マタイ受難曲》演奏計画について
公演日はイースター4月8日の前。事前の諸準備を進

める。2006年は12月の定期演奏会を省いて2007年3月の《マタイ受難曲》に備える。これを第100回定期演奏会とする。

2. 2005年~2006年の各定期演奏会曲目について

第97回 (2005春): BWV116, 129, 137, 147

第98回 (2005.12): BWV123, 192, 197 など

第99回 (2006春): BWV180, 187, 194

3. 橋本副指揮者との演奏活動が緊密化されてゆき、2007年の《マタイ》は、松山バツハ合唱団との協演が期待される (東京・松山で各1回)

以上、総会は時間が足りないくらい活発な意見が出ましたが、無事終了し、会場を移して、創立42周年の記念懇親会を行ないました。

創立42周年記念懇親会に参加して

佐野 庄子 (団員:アルト)

バツハ合唱団創立42周年、おめでとうございます。

6月26日の土曜日、2004年度の団員総会后、半蔵門の東條インペリアルパレスに場所を移して、創立42周年記念懇親会が開催されました。

42年は長く重みのある年月、しかし、先生は「私は前ばかり見ているから少しも長いとは感じない」とおっしゃる。

ご挨拶いただいたそれぞれの一言を通じて、この合唱団員の方々の、思いもよらないご縁による関りの不思議さに驚き、また、バツハの音楽をこよなく愛し、そのうえ日本語で唱う喜びを共有していることを痛感しました。

創立当初からの団員も含め平均年齢もかなり上がっておりますが、若い頃とは異なる表現で心に響かせることも出来る年齢でもありましょう。

同じ年齢で (高校での同期) 立場は違うものの生活の締めくくりを考えることは当たり前の時期なのですが、大村先生の場合はそれを踏まえた上で更なる前へと活動する凄さを感じます。動ける限り次へ次へと邁進なさって行かれるでしょう。私は、そのエネルギーに浴し今少し元気になれたらと思います。締め言葉の中でその様なことを感じました。

さあ、私たちは次回のために練習を重ねましょう。

J.S.バツハ

教会カンタータの夕べ

入場無料

日時 7月31日 (土) 18:00 開演

会場 世田谷中央教会

(田園都市線「桜新町」下車、サザエさん通り、5分)

カンタータ第93番《ただ 主によりたのみ》より

カンタータ第77番《主を愛すべし 心のかぎり》より

カンタータ第78番《イエス わが心を》より

演奏

ソプラノ独唱=光野孝子 合唱=東京バツハ合唱団

ピアノ=内山亜希 指揮=橋本眞行、大村恵美子